

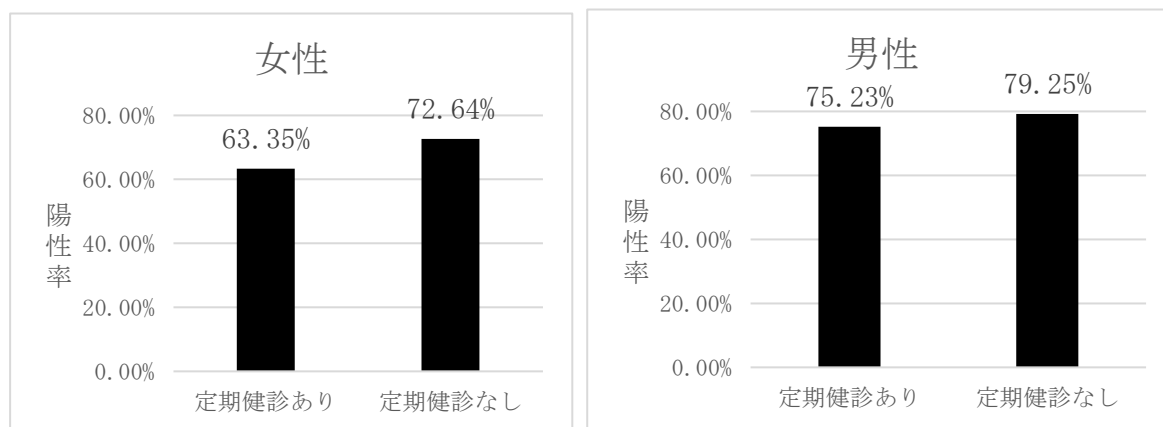
「山形市民を対象とした唾液潜血検査の臨床的意義」

○千葉靖子¹, 村田尚子¹, 波多野美月¹, 三浦裕太郎¹, 土田静花¹, 酒井智子¹, 柴崎麻実¹,
加藤丈夫^{1,2}, 加藤裕一¹, 山下英俊¹ (1:山形市保健所シンクタンクチーム, 2:山形病院)

【背景・目的】唾液潜血検査は歯周病のスクリーニング検査として有用であることが報告されている(大島ら, 2001). 私達は, 唾液潜血検査の結果と自記式問診票の関連について, 自記式問診票の該当数が多くなるほど唾液潜血検査の陽性率が有意に上昇し, 特に関連のある問診項目があることを報告した(土田ら, 2019). 加えて, 歯科医院での定期健診ありの人は定期健診なしの人に比べて唾液潜血検査の陽性率が有意に低く, 年2回の歯科定期健診は歯周病予防に有効であることを報告した(松田ら, 2020). 今回, 今後の歯科保健指導に役立てることを目的とし, 対象者を増やし, 男女の差を下記のとおり分析した.

【対象・方法】対象者:平成30年度・令和元年度に20歳以上の山形市民5,240名に唾液潜血検査への参加を呼びかけ, 1,558名が参加した(参加率29.7%). 参加者内訳:女性1,008名, 男性550名, 平均年齢66.8歳(29歳-89歳). 検査方法:ペリオスクリーン®(サンスター社)を用いた唾液潜血検査, 自記式問診票の記入. 統計解析:唾液潜血検査と歯科定期健診との関連についてFisherの正確検定, $p<0.05$ を統計学的に有意とした.

【結果】歯科定期健診の受診状況について, 女性では「歯科定期健診あり」が513人, 「歯科定期健診なし」が402人であった. 男性では「歯科定期健診あり」が218人, 「歯科定期健診なし」294人であった. また, 歯科定期健診の受診率は, 女性50.9%, 男性39.6%であった. 歯科定期健診の有無と唾液潜血検査結果の関連については, 女性で定期健診ありの人は定期健診なしの人に比べて陽性率が有意に低かった($p=0.00353$). 男性では有意差はなかった($p=0.286$).



【結論】

本調査・研究では, 女性では歯科定期健診を受けている人は唾液潜血検査陽性率が有意に低かったが, 男性では有意差がなかった. 男性で有意差がみられなかった理由としては女性に比べ男性の方が歯科定期健診を受診している人の割合が低いことが考えられるが, 今後さらに検証をしていく必要がある. これらの結果は今後の歯科保健指導において, 指導の要点を検討する際に有用であると考えられる.

▶R 3年度

第 48 回山形県公衆衛生学会発表(歯周病に関すること)のまとめ

テーマ	山形市民を対象とした唾液潜血検査の臨床的意義
内容	唾液潜血検査の結果と歯科定期健診の有無との関連について、対象者を増やし(市民 1,558 名(参加者内訳:女性 1,008 名、男性 550 名))、男女の差を分析した。
結果	本調査・研究では、女性では歯科定期健診を受けている人は、唾液潜血検査陽性率が有意に低かったが、男性では有意差がなかった。

《分析結果の詳細》

- ・ 歯科定期健診の受診状況について、女性では歯科定期健診「あり」が 513 人、「なし」が 402 人であった。男性では歯科定期健診「あり」が 218 人、「なし」が 294 人であった。歯科定期健診の受診率は、女性 50.9%、男性 36.9%であった。
- ・ 唾液潜血検査陽性率は、女性では歯科定期健診「あり」が 63.35%、「なし」が 72.64%、男性では歯科定期健診「あり」が 75.23%、「なし」が 79.25%であった。